

タイトル： パンデミックを生きる（1）

皆さん、お互いに大変な世界史のなかに放り込まれてしまいましたね、頑張りましょう。

こんな中で、高校時代の友人が試みていることを紹介いたします。

彼は高校時代、将棋のインターハイで日本一になった強者です。この自粛期間にオンライン英会話を申し込み、世界各地の若者を相手に英語を習うと見せかけて（？）何と世界の情報を生の英語で入手し、FB（フェイスブック）で紹介してくれているのです。これがすこぶる面白い。

本人は「ただの英語のブラッシュアップ」と否定しますが、彼はすでに英語力も社会知識もフル装備であり、今さら世界のアルバイト学生さん達からあえて学ぶべくもないのです。

Skype か Zoom か、そこで何気なく交わされる情報は驚くほど生々しく新鮮です。そして大手メディアのTVにも新聞にも載っていないような些末な内容ゆえにこそ、貴重な現実が伝わってきて「こんな方法があったのか！」と畏れ入ったわけです。

彼の友人の中には、元大使館勤務や大企業トップのような高級職位と繋がりのある情報通もいて、大所高所からの意見も聞けますが、未熟なれど躍動感のあるフレッシュ味においては、オンライン英語学習の方に軍配を挙げようと思います！（笑）

そこで知ったわけですが、ロシア、南アフリカ、マレーシア、インド、シンガポール、バングラディッシュ、フィリピン・・・どこにチェックインしても『ステイホーム』が浸透しているということに今更ながら驚きました。

いや、当たり前と言えはそうなのですが、改めて、本当に「パンデミック」が世界を襲っているのだなぁと実感し、世界の隅々まで合言葉『ステイホーム』が定着していることに感動すら覚えてしまいました。

ここで重要なのは、既に本物のジャーナリストは無力化されているということでしょう。自国からの出国も相手国への入国も出来ない状態で、仮に何とか出来たとしても、渡航先で2週間は動けず帰国後も2週間は動けない。これが共有のルールなのです。

世界中の皆で連帯し「顔を直接合わさないようにしよう」「個々で切れ切れになろう」と言うのですから、ここにオンラインシステムが無かったら、私たちは本当に孤独になるところでした。

これから時代が大きくドラスティックに変わっていく様を、しっかり見届けたいと思います。